

科目名	アメリカン・メディア研究特論	担当教員	杉田 弘毅
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>アメリカが重要視する、国民の自由や知る権利に応えてきたのがジャーナリズムであった。それゆえ、アメリカにおいてはジャーナリズムが社会に資する影響力は大きく、権力を厳しく監視することで、国民の権利を守ってきたともいえる。こうしたアメリカのジャーナリズムの役割は、フェイクニュースが蔓延する現代において、重要性は増している。しかし、その国民に対してもつ大きな影響力の裏で、ジャーナリズムの現場はどのように動いてきたかはあまり知られていない。誰もが認める大国アメリカのメディアを考察することは、世界情勢を捉える視点を養うことに他ならない。特に伝統的なメディアに対して敵対姿勢をとるトランプ政権が誕生して以来、難しい時代を迎えているアメリカのジャーナリズムの実情は、日本メディアの将来を探る上でも大いに参考になる。アメリカのメディアを中心とした社会の様相を考察することで、現代に必要なメディアリテラシー教育の在り方をも考える。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカのジャーナリズムの歴史や民主主義国家における役割を理解する。</li> <li>2. デジタルメディアが力を持つなど、メディアの近年の変容とその課題を考える。</li> <li>3. トランプ時代における伝統的メディアの苦境、フェイクニュースが蔓延する理由を考察する。</li> <li>4. 現代社会において必要なメディアリテラシーをアメリカの事情を基に探る。</li> <li>5. 日本におけるメディア事情を考え、アメリカの例を基にその課題を探り、その解決策を考える。</li> </ol>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <p>授業は、以下に示す15回までの内容を教科書、参考文献を基に学習し、その総括的なスクリーニングを行い、討議します。その後2週間以内に4000字程度のレポートを提出してもらい、その評価を踏まえた上で、最後に科目修得私見を受けてもらいます。</p> <p>第1回～第3回：アメリカのジャーナリズムの歴史と役割（第1回～第3回）</p> <p>第4回～第7回ITなどメディアの近年の変容と課題（第4回～第7回）</p> <p>第8回～第10回：トランプ政権とメディア、フェイクニュースの問題（第8回～第10回）</p> <p>第11回～第12回：現代社会におけるメディアリテラシー（第11回～第12回）</p> <p>第13回～第15回：日本メディアの課題と解決策（第13回～第15回）</p>			
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>評価は、スクリーニング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。</p>			
<p><b>【教科書】</b></p> <p>『アメリカはなぜ変わるのか』ちくま新書 ISBN978-4480064806</p> <p>『入門トランプ政権』共同通信社 ISBN978-4764106963</p> <p>『「ポスト・グローバル時代」の地政学』新潮選書 ISBN978-4106038198</p> <p>『アメリカのジャーナリズム』岩波新書 ISBN978-4004301837</p> <p>『ネットメディア覇権戦争』光文社新書 ISBN978-4334039660</p>			
<p><b>【参考図書】</b></p>			

『世論（上）』 岩波文庫 ISBN978-4003422212

『世論（下）』 岩波文庫 ISBN978-4003422229

『アメリカ文化事典』 丸善出版 ISBN978-4621302149